

開 議

○佐々木謙二議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、11番、大沼久議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○佐々木謙二議長 日程第1、市政一般に関する質問を6日に引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

谷口栄子議員の質問

○佐々木謙二議長 順位5番、議席番号5番、谷口栄子議員。

(5番谷口栄子議員登壇)

○5番 谷口栄子議員 おはようございます。

6月定例会に通告しております3点について順次質問させていただきます。

答弁は、内谷市長、大滝教育長、浅野市民課長、鈴木建設課長、齋藤商工観光課長にお願いいたします。

初めに、ミャンマーのサイクロン、中国・四川省大地震の被災者に心からお見舞いを申し上げます。私たち公明党は全国の県本部を中心に真心の募金活動を行いました。

ことし4月からスタートした75歳からの長寿医療制度の見直しについて、6月3日、与党プロジェクトチームの会合が開かれ、負担軽減案がまとめられました。この負担軽減案には、地方の声、現場の声が届けられ、盛り込まれました。

基礎年金収入のみの低所得者約270万人の保険料を9割軽減することを始め年金から保険料を天引きするかわり息子さんから肩がわり徴収、終末期相談支払い料の廃止を含む診療報酬体系の見直しを中央社会保険医療協議会に要請。サラリーマンの子供の扶養家族だった人の負担軽減措置延長等が与党の見直し項目にまとめられました。

見直し額は、本年度だけで約560億円、来年度以降は約330億円の財源が必要となる見通しのことです。

来年4月から、1つ、基礎年金年80万円しか収入のない約270万人を対象に加入者全員に課せられる均等割部分の負担軽減を現在の7割から9割に拡大。2、住民税非課税の90万人、年金収入が約153万円から210万円程度の人を対象に所得に応じて改める所得割部分を段階的に軽減される。これらの措置でも保険料の急増で納められない特別な事情のある人については都道府県単位の広域連合ごとに個別に減免を実施することやシステム改修が間に合わないために今年度限りの対策として既に均等割が7割軽減されている低所得者470万人を対象に6月、8月は現行どおり保険料を天引きした後、10月以降の半年間は徴収を停止するなど低所得者世帯へのさらなる負担軽減策が講じられました。廃止ではこれから急速に進む高齢社会で安心の高齢者医療が確保できないことや国民皆保険制度を持続可能な制度にするための改革ですので、制度の骨格は維持し、運用の改善点を利用者の立場から総点検されました。

わかりやすいパンフレットを作成してもらい、

1対1の対話や今後、市報等でも丁寧に質問に答える方式で新制度を市民に納得していただける努力が必要だと思います。

それでは、質問に入ります。

1点目、環境に優しいまちづくりの推進についてです。

さきの主要8カ国環境大臣の会合を記念して、特別シンポジウム「気候変動と水」と題して、昨年ノーベル平和賞を受賞した国連のラジェンドラ・パチャウリ議長の基調講演の中で「温暖化で2100年の平均気温は今と比べ最も高く4度、最低でも1.8度上昇する」と予測されています。

グリーンランドや北極圏の氷が解け、海面が6メートルから7メートル上昇し、生物種の20ないし30%が絶滅の危機にさらされること、日本でも降水量が極端に変化し、50年代には米の収穫量が今の40%も減少することや海面上昇が起きて大阪、名古屋で海面が1メートル上昇すれば410万人が影響を受け、洪水も深刻化すると力説されています。

CO₂（二酸化炭素）排出規制などの緩和策をとることで気象を安定させる必要がある、大きなチャンスが残っていない、急がなければならないと警鐘されています。

また、地球温暖化の影響でヒマラヤ地域の氷河の融解が進み、氷河湖が決壊して大規模な洪水が発生するおそれが高まっていることや気象変動は水循環にも大きな影響を与え、洪水や干ばつなどが頻発するおそれがあるとの警告です。

7月北海道で開催される洞爺湖サミット（主要国首脳会議）は、地球の環境問題を主要議題の一つに取り上げられております。

温暖化防止対策の取り組みは、まずCO₂の削減です。無関心ではいられない世界情勢に自分たちにできることを考え、実行しなければいけないと感じているところです。

1つ、CO₂削減目標と啓発運動の取り組み

について。

夏のエコオフィス運動での県庁の取り組みが去る5月27日付山形新聞に紹介されています。

県庁職員がノーネクタイの軽装での勤務を6月1日から実施されています。05年度から月2回通勤のマイカー使用自粛をこしはさらに取り組みを強化しようと週1回のエコ通勤デーを設けております。通勤時の相乗り、急速な急発進、急加速を避けるエコドライブの励行など9月30日まで行うというものです。

07年度冬のエコオフィス運動、07年11月1日から08年3月31日の間マイカー使用自粛の実績は、職員6,582人のうち運動期間中10回以上実施したのが860人で13%、削減距離は60万キロ、燃料費は1リットル当たり9.6キロで換算し、62キロリットル削減になったとのことでした。

夏の目標では、冷房を28度に設定し、照明や事務機器の適正使用の徹底で電気の使用量を04年度比で6%削減を目指しております。

本市は、ISO14001を取得し、「環境都市長井」を目指しております。本市のCO₂削減目標と啓発運動の取り組みについて市長に伺います。

次に、1人1日100グラム減量とレジ袋持参運動、マイバッグ運動の推進について。

2006年に成立した改正容器包装リサイクル法がことし4月から完全施行したのに伴い、全国各地の自治体、住民、企業などが連携してレジ袋の減量に取り組む動きが本格化しています。

国内で消費されるレジ袋は、年間30万トンにも及ぶようです。ここ二、三年、昨年もヨークベニマル長井店、ヤマザワ長井店前でレジ袋、マイバッグ持参を市民に呼びかけてくださったのが長井市婦人会、長井市消費者の会、長井市衛生組合連合会等の皆さん方です。声をかけ合うことで意識が高まり、「買い物に行くときには必ずレジ袋やマイバッグを持とう」と声をかけられたことが頭に浮かび、実行しようという

心が起きます。私も初めはなかなか実行できませんでしたが、今は何枚かのレジ袋を多目にマイバッグに入れております。多目の買い物をするときは大き目のレジ袋、入れている中からそのときの量に合わせてマイバッグと一緒に使用しています。ポイントを押してもらうことも楽しみになりました。東京杉並区では、既にレジ袋の有料化を条例で決め、実施しています。レジ袋1枚3円から5円で計算されています。レジ袋1枚で10グラムのごみ減量につながるというのです。

生ごみもしっかり水を切れば10グラムないし30グラム減量になるようです。野菜などもできるだけ工夫をして利用することや食べ物を残さない努力など1人1日100グラム減量とレジ袋削減はごみゼロやまがた推進県民会議、会長、鈴木俊幸県環境保全協議会会長の2008年度県民運動として決められています。

分別、リサイクル、さらにできることから進めようエコショッピング運動など昨年の状況やことしの取り組みを浅野市民課長に伺います。

3つ目に、市内道路の街路樹下と花壇の管理について伺います。

私は、目黒前市長に長井市全体が公園構想のまちづくりを提案してまいりました。同じ提案を内谷市長にもお願いするところです。花の長井は、春のさくら回廊、5月のつつじ、黒獅子まつり、6月から7月にかけてのあやめまつり、8月の花火大会、水まつりと続き、通年観光としてもフットパスを生かしたまちなか観光をアピールしています。いつでも観光客を迎えられるようにするには祭り期間だけの、また公園だけがきれいではなく、市内全体がいつも管理されていることだと思います。

最近マイロードサポーターの看板を見かけます。路線は県道長井大江線、区間は長井市神明町。この路線は、5月中旬市内片田、神明町の

女性の会の皆さんが街路樹下や花壇にガザニア、ニチニチソウ、ベゴニアなどの色とりどりの花を植えてくださり、サポーターとして管理されています。館町北からタスパークホテル付近の国道287号線にも街路樹の下にミニダリア、サルビア、メランポジウムの花が植えられ、とてもきれいに管理されています。アカシア通りにもマイロードサポーターの看板が立って、舟場地区の皆さんが管理されている区間になっています。ところがその先のあかしや橋手前と橋を渡ったところの街路樹、さらにあやめ通りはまだだれも手を加え清掃されていません。マイロードサポーター制度をもっと多くの市民に声をかけ、管理していただく方、地区を探してはどうかと思います。街路樹下のぼうぼうになっている草をなぜもっと早くきれいにできないのか。パトロールをしている職員もわかっていると思いますが、予算がないからそのままにしておくのではなく、手を打つべきだと思います。

また、とても残念なところが見受けられます。生涯学習プラザ前の道路の花壇が草が伸びたままになっていることです。花作中道線、百間通りは花壇に植えられているドウダンの丈が伸びて車の運転時確認しにくいところがあります。管理方法を鈴木建設課長に伺います。

2点目、豊かな体験活動推進事業について、自然の中での体験活動の推進について質問いたします。

5月16日の山形新聞で仙台市立高森中学校の2年生105人がホームステイによる体験学習のため置賜地方を訪れ、15日、長井、高島、飯豊の各市町で住民を講師にそば打ちや畑仕事などを行っています。

今回で3回目、14日から2泊3日の日程で来県し、15日は1市2町に分かれ活動し、写真では高島町安久津でそば店と酒屋を経営する古川和夫さん宅で4人が初めてそば打ちに挑戦しているところが紹介されていました。

+

また、5月24日山形新聞には、千葉県八千代市立大和田中学校の3年生約190人が22日、23日の2泊3日で長井、飯豊、高畠の各市町で民泊しながら農業体験を行っています。修学旅行の一環で数人ずつグループに分かれ、各家庭で農作業を体験されました。長井市では、伊佐沢地区の農家16軒に38人の生徒を受け入れて、野菜の苗やブドウの苗木を植えたり草刈りをしたり牛の世話をするなど、牛の世話は竹田博一議員さんのところでの体験学習とのこと。写真ではラ・フランスの摘果作業に取り組んでいる女子生徒が紹介されていました。「ラ・フランスの木を見たのは初めてで、なれなくて大変だけど、ふだんやらないことが体験できるのは楽しい」と話していました。

ことしより5カ年計画で子ども農山漁村交流プロジェクトが、ふるさと子ども夢学校というんですけども、文部科学省、農林水産省、総務省の協力で全国の小学校2万3,000校120万人を目標に農山漁村、ふるさとでの宿泊体験活動の推進、受け入れ体制の整備、地域活力をサポートするための全国推進協議会の整備を進めることになっています。

文部科学省は、子供たちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識など豊かな人間性や社会性をはぐくむため農林水産省が進める受け入れモデル地域と連携し、小学校5年生を主体に農山漁村、ふるさとでの宿泊体験活動を実施する新規の事業です。

農林水産省では、各都道府県に100人規模で受け入れ可能なモデル地域、全国で40地域を設け、受け入れ計画の作成、受け入れ拠点施設、廃校改修や研修施設等の整備を総合的に支援し、全国500地域にモデル構築を行うとあります。また、総務省は、都道府県、市町村独自の積極的な支援を行うことになっています。

都市、農山漁村のふるさとの教育交流による地域活性化推進事業として新規の事業になって

おります。

長井市でも地域が一体となって子供たちの宿泊体験活動を受け入れたらどうでしょうか。グリーンツーリズムを通して子供たちに長井市のレインボープランの理念に基づく農業体験、不伐の森での体験学習、長井ダムやまなび館での水の学習などいろいろメニューが準備できると思います。交流人口がふえ、長井市の活性化が築かれると思います。受け入れについての市長の見解をお聞かせください。

また、長期体験学習は千葉県の農山村留学推進事業や1988年度から実施している兵庫県の自然学校は県下の公立小学校を対象に生きる力をはぐくむもう一つの学校として小学校5年生が参加している。

教育長には、受け入れ時の他県の子供との交流や本市の子供たちが他の県で自然学習体験で学ぶことについてなどこの事業に対しての見解をお聞かせください。

3点目、観光事業について。

市長は、施政方針の中で商工会議所、観光協会、長井まちづくりNPOセンターなどが中心となってフットパスや登録有形文化財を生かしたまちなか観光を前面に出し、従来の桜、つつじ、あやめまつりの開催と連携した市内の3商店街の自主事業に支援を行い、観光客の増加とまちなかの活性化を図られることに力を入れておられます。長井の顔である中心街の活性化にも本町・中央まちづくり協議会、商工会議所、各商店街等と協議会を重ねながら、にぎわいのあるまちづくり、コンパクトシティーの方向性を探り、核となる街路事業の採択に向けて全力で模索されていることを打ち出しております。具体的に考えている事業お聞かせください。

また、2番目の水まつりのときの花火大会の今後の取り組みについて、市内の全世帯から500円の協力金と企業から多大な協力金をいただいで行われてきた花火大会について、少なく

なった観光事業の予算で従来どおり進めるには無理があるのではないのでしょうか。明年はつじまつり時の黒獅子まつりが20回目となることで市民の皆さんも期待を持っています。昨年よりことしの予算は100万円も減額され、獅子を出してくださった地区では「赤字を覚悟しての取り組みだった」と聞いております。祭りを盛り上げてくださる皆さんの希望、要望をよく聞き、またアンケートなどで調査をされてイベントにめり張りをつけた予算とすべきではないかと思えます。いつも企業の方々に高額の協力金をいただくのもどうかと思えますし、22年度には長井ダムも完成します。花火大会に対する今後の取り組みについて市長に伺います。

最後に、さくら回廊、黒獅子まつりを振り返って。

本市は、春のさくらまつり、5月の白つつじと黒獅子まつり、6月のあやめまつり、8月の水まつりと花火大会を大きな取り組みとして力を入れていきます。

昨年に続き、ことしも山形花回廊、花と食と歴史の県南ガイドブックが発行され、赤湯の日本のさくら百選の烏帽子山千本桜を起点とした長井市の国指定天然記念物久保ザクラ、草岡の大明神ザクラ、白鷹町の県指定天然記念物薬師桜を初め樹齢500年、1,000年余りの古木や銘木が点在している43キロの花回廊を紹介されました。

春のさくらまつりには市内商店街にはピンクの「千二百年桜」ののぼり旗が立てられました。久保の桜には、ことしも期間中、大型バスや自家用車で10万人の方が見えられたと聞いています。大型バスも近くの駐車場に駐車できるようになり、ことしは障害者も使える水洗トイレが新設されて、観光客に大変喜ばれました。

白つつじまつり期間は、商店街ののぼり旗も緑に変えられ、シロツツジの花も一斉に咲きそろい、素晴らしい祭り期間だったと思えます。

2年目のあら町レトロや19回目の黒獅子まつりも子供たちの伝統芸能の発表会も素晴らしいものでした。私もサークルつむぎのメンバーとして栈敷席の案内をさせていただきました。雨が降ってきたときは雨具の用意が少なかったのが、観光客からの苦情もありましたが、商工観光課の職員の皆さんと協力し、無事終了することができました。明年は20回目の黒獅子まつり、「スタート時間を早めてはどうか」との意見もあり、春から一連の観光行事に頑張られた職員の皆さんや関係者の皆さんにこの場をおかりして感謝を申し上げたいと思えます。

また、間もなくあやめまつりも始まりますが、さくらまつり、黒獅子まつりを振り返っての反省点を齋藤商工観光課長にお伺いし、以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。谷口議員のご質問にお答えいたします。

まず最初に、谷口議員からは環境、そして観光や交流のまちづくりについて多岐にわたって貴重なご提言をいただき、まことにありがとうございました。

それでは、私の方の答弁は4点かと思えますが、答えさせていただきます。

まず第1点目、環境に優しいまちづくりの推進、CO₂削減目標と啓発運動の取り組みについて申し上げます。

谷口議員もご承知のとおり、長井市の環境に対する取り組みといたしましては、平成14年7月15日にISO14001の認証を取得いたしました。これは地球環境問題に対応し、環境への負荷を減らすためということで議員の皆様からご提案いただいて取り組んだものということでございますが、環境目標を設定しながら取り組んできましたので、そんなことから職員における環境負荷低減に対するしっかりとした意識が定

+

着したというふうに考えております。

実績といたしましては、エコオフィス活動で平成13年度の比較で平成14年度に約540万円、15年度で約1,280万円、16年度は1,380万円、17年度で1,390万円の経費の削減が図られたということでございます。

また、環境目標の達成状況では、平成14年に201項目の目標を設定し、うち196項目の目標が達成したところでございます。

平成19年7月14日、昨年でございますが、ISO14001の認証期間満了となる機会にISOのノウハウを生かして長井市独自のエコオフィス活動を取り組むということで更新をいたしました。これ経費的に取得に約400万円かかりました。それから年間定期審査業務の委託で約50万円から70万円、またさらに昨年更新する際に200万円から300万円ぐらいかかるということから独自にやったわけでございます。

平成20年度からは環境計画関係の事務は市民課生活環境係に移管となりまして、平成18年3月に策定した「長井市地球温暖化防止実行計画」に基づきまして、平成22年度までに平成12年度を基準としたCO₂の排出量の10%の削減を重点目標として今後とも取り組んでまいりたいというふうに考えております。

具体的には6点ほどございまして、公用車や施設の燃料使用量の削減、それから2点目が電気使用量、3点目がコピー使用量、4点目が上水道使用量、5点目が一般廃棄物排出量、これの削減、そして6点目はグリーン購入金額などをふやすということでございます。

企画調整課では、フラワー長井線月1回乗車運動といたしまして長井線の利用拡大とともにCO₂削減を目標に取り組んでいるところでございます。今後とも山形県が定めております地球温暖化防止アクションプログラムと連携いたしましてCO₂削減のための取り組みを行ってまいりたいと思っております。

2点目の豊かな体験活動推進事業、自然の中での体験学習の推進についてお答え申し上げます。

長井市では、伊佐沢地区でこれらについて自主的に取り組んでいるわけでございますが、伊佐沢地区での体験活動の受け入れについては伊佐沢地域振興会が主体となりまして、ことし5月に仙台市泉区の中学生2年生を34名、千葉県八千代市の中学校3年生38名が地区内の家庭に1泊2日で体験活動を行ったようでございます。宿泊受け入れに協力された家庭は、それぞれ14軒、16軒ほどというふうにお聞きしております。もともとは県の置賜総合支庁産業経済部の事業として体験観光をテーマとした置賜管内のコース設定の中に長井市では伊佐沢地区と西根地区での体験活動がメニュー化されたようでございますが、その当時は位置づけがなかったと。その後、積極的に体験学習を受け入れている高畠町からの要請などもあり、平成18年度から受け入れを行っているというふう聞いております。仙台市からの学校は3年連続ということで、まさにリピーターみたいな定着の方向になってるんじゃないかというふうに思います。当時は、竹田博一議員も地域振興会の会長さんとしてこの事業に取り組まれたというふうにお聞きしております。

体験活動の受け入れについては、その下地に伊佐沢地区の場合は沖縄との交流実績があり、また伊佐沢地区は稲作だけでなく果樹・苗木栽培など多種目の経営がなされているという地域型ということも受け入れられる要因だったんじゃないかというふうに考えておりますが、市民との協働と地域コミュニティの強化により互いに支え合う社会の実現を目指している中で伊佐沢地区のこうした活動には学ぶべきものが大きいというふうに考えております。

施政方針の中でも述べておりますが、長井ダム周辺を軸とした市内外の交流の場、またレイ

ンボープラン、循環のまちづくりの環境学習の場として長井はいろんな受け入れにはすぐれた土壌がありますし、加えて21世紀不伐の森での植樹などもメニューに据えられるんじゃないかというふうに考えております。市といたしましては、受け入れのための農家、地域の体制づくりのお手伝いを考えておりますし、また都市との子供、消費者の皆さんが楽しめるプログラムづくり、このノウハウがなかなか難しいわけでございますけども、伊佐沢地区を始めとしたグリーンツーリズム連絡協議会ネットワークというのがございまして、今現在代表は金子宣興さんですけども、こういった方々と主管課であります農林課や、あるいは教育委員会と連携を保ちながら補助事業に取り組んでいただくレインボープラン協議会、今取り組んでいただいておりますけども、その中でもこういったプログラムの策定についてお願いしておりますので、お互いに連携を図りながら検討していただくようお願いしていきたいというふうに思います。

3点目の部分でございますが、にぎわいのあるまちづくり、コンパクトシティーの方向性を探り、核となる街路事業の採択に向けて全力で模索されていることについて考えてる事業ということでございますが、これ観光事業の視点からのご質問だというふうに思いますけども、先日、本町・中央まちづくり協議会の方で計画書を取りまとめましたので、その計画書を要望書ということで市の方からも連名で文書をつけまして、6月上旬に、6月の初めに県の土木部長の方に行ってまいりました。地元の協議会の役員の皆さんと、それから平県会議員にもお願いして行ってまいったところでございますが、その中でまず私は、街路事業については本町、栄町、駅前通りの単なる歩道の整備という事業ではなく、あくまでも中心市街地の活性化を図る上での位置づけをきちんとしていかなきゃならない。このために中心市街地活性化計画を市単

独でつくってまいりたいというふうに考えております。そして商業機能だけではなく長井市が目指しておりますまちなか観光の要素も加えることによりまして、にぎわいのあるまちづくり、あるいは人が集まれるような機能を持った地域にしなければならないというふうに思っております。ご承知のとおり、議員もご指摘のとおり、中心市街地は医療とか、あるいはスーパー、商店街とか、加えて交通の便も駅が近く、しかもバス等も大変利便性の高いところでございますので、歩いて、あるいは自転車で買い物とかいろんな生活が安全・安心でできるというまちにすべくこれからは景観計画を含めいろいろ整備してまいりたいと思いますし、あと根底には長井のこういった物語のあるまちづくりしていくかというふうに考えた場合は舟運文化をやはりもう一度整理しながら舟運のまちとしての機能、フットパスも含めてぜひ中心市街地の中に感じられるようなそういった物語性のあるまちをつくってまいりたいと思っております。

最後になります4点目ですが、さくら回廊、黒獅子まつりを振り返ってということでございますが、さくら回廊と一緒にやまがた花回廊キャンペーンを昨年から県とJR東日本の協力で3市5町と上山でやってるわけでございますが、ことしで2年目ということで大変首都圏始めとしたいろんなところから観光客の皆さんが長井にいらしてるということで喜んでるところでございます。

さくらにつきましては全体で13万7,000人、黒獅子まつりにつきましては約6万8,000人というふうに考えておりまして、つつじを含めまともう11万人ぐらいの集客でなかったのかなというふうに思っておりますし、ことしは長井菓子まつりや昨年に引き続きあら町レトロをお願いしたわけでございますけども、「長井食の発見の旅」というふうに題したマップなども整理いたしまして非常に好評だったというふうな

+

ことと売り上げとか来客数もまちなかの商店街でふえたというような事業所が多くなってるというふうに聞いております。

来年度は大河ドラマ「天地人」もあるわけですので、花回廊キャンペーンも来年まででございますので、ぜひ将来につながる基盤をつくれるそんな年にしたいということで観光事業の持つ経済波及効果、これを高めるべくいろんな取り組みを行ってまいりたいと思っております。

詳しいことは後ほど商工観光課長からお答えさせていただきます。

最後に、花火大会の今後の取り組みでございますけれども、議員ご指摘のとおり、なかなか、市民の寄附あるいは企業の寄附に頼ってるわけですのでございまして、毎年行うというのは大変予算的に厳しいというふうに思っております。貴重なご意見というふうに承っております。

そして水まつりと黒獅子まつりの関係でございますけれども、水まつりについては夏ということもあって浴衣で随分若い人たちも集まる祭りでございますので、これを花火大会連携させて行ってるわけでございますけれども、これをどうしていくのかということと黒獅子が来年20周年を迎えますので、その祭りのあり方についても観光協会の方に委託してる事業でございますので、観光協会の皆様と意見交換をしながら市民の皆様が喜んでいただけるようなお祭りにぜひしていかなくちゃならないと思いますので、今後ともいろいろご指導いただきたいと思っております。

以上でございます。

○佐々木謙二議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 おはようございます。私の方には谷口議員のご質問2点かと思っておりますので、その2点についてお答えをしたいと思います。

1つは、豊かな体験活動推進事業についての考えということですが、豊かな体験活動推進事業は、先ほど谷口議員がお話しなされたとおり

で、3つの省の連携の事業になっています。農水省の方は受け入れモデル地域のインフラ整備のための補助金を出すとか、文科省では小学校5年の児童を対象に農山漁村における生活体験を行う推進校を募集し、移動費や宿泊費、活動費の補助を行う。総務省の方では、都道府県や市町村、地域コミュニティの取り組み支援、研修会のセミナー開催、地域リーダーの養成等を行うということになっているようです。4月末に、先ほど市長からもありましたけども、全国50カ所の受け入れモデル地域が公表になりました。山形県では、西川町が指定されたようです。

この事業について学校の方に通知が来たのがことしの2月で、今年度の年間計画に間に合わなかったこともあり、第3次募集が6月6日締め切りになっていましたが、長井市内の希望校はありませんでした。予算上は各都道府県5校の枠があるようですけれども、県内で希望している学校は今のところ1校という話を聞いています。

私個人的には子供の成長にとっては体験活動は欠かせない活動だと思っておりますので、この事業については大変魅力を感じています。現在市内の各学校では、小学校5年で1泊2日の少年自然の家での宿泊学習、6年で1泊2日の研修旅行、そのほかに登山とかフットパス学習、野菜づくりとか多様な自然体験活動など学校教育目標達成のための行事を行っています。

もしもこの事業を受け入れるとすると推進校の指定は原則1年限りですので、次年度同じ事業をやると個人負担になるとか、あと学校全体の行事の見直しとか年間計画の見直しが必要になってくるというふうに思っています。5年間続く事業のようですので、次年度以降の対応については各学校でも保護者とも話し合い、課題もありますけれども、いろんな角度から検討するように校長会で話をしたいというふうに思っています。

2点目、自然の中で学ぶこと、他県の交流についてということですが、先ほどもお話ししましたけども、長井市は現在受け入れモデル地域になっていませんが、今の子供たちはかかわり合う力が足りないとか言われていますし、県でもコミュニケーション力の育成に力を入れています。もしそういう機会があれば積極的に交流を考えるべきと思っています。

他県との交流については、長井には長井の心があるようにそれぞれの地域に特有の自然、風俗、習慣、文化があります。交流を通してそれらに触れること、肌で感じることは子供たちの物の見方、考え方、感じ方が深まるなど成長にとっても大変大事なことだなというふうに考えています。

以上です。

○佐々木謙二議長 浅野敏明市民課長。

○浅野敏明市民課長 おはようございます。それでは、谷口議員の質問にお答えいたします。

私にはレジ袋持参運動の推進についての質問だと思います。

先ほどご紹介ありましたように、平成17年9月に長井市消費生活の会、それからほかの女性団体、衛生組合などが中心となりまして長井市買い物袋持参運動推進協議会が設立になったところでございます。買い物袋持参の運動とともに簡易包装運動を展開しておられ、啓発活動や意識調査を行っていただいております。

昨年、19年度の取り組みとしましては、市内のスーパーマーケットの店頭におきまして年間6回ほどの啓発活動や意識調査などを行っていただいたところでございます。その成果も徐々にあらわれておりまして、微増であります。買い物袋持参率も少し伸びておるところでございます。各店舗ばらつきがございますが、平均で約25%の持参率となっております。

山形県のごみゼロやまがた推進プランの実施方針につきまして、ごみゼロやまがた推進県民

会議、先ほどお話ありましたが、そこで目標数値、それからキャンペーンなどが決められたところであります。谷口議員からも紹介がありましたが、1人1日当たり100グラムのごみ減量運動、これは平成16年度の排出量、1日当たり884グラムを平成27年度に780グラムとするものでございます。

しかし、買い物袋持参運動だけではなかなかレジ袋削減に限界があるというふうに思っております。先日のレジ袋の有料化、新聞報道でもございましたが、5月30日に東根市さん、7月1日に山形市さんが有料化を始めるわけですが、担当課長と話す機会がございました。それによりますとレジ袋有料化を前面に出さずにレジ袋削減の運動ということにしまして、レジ袋無料配布中止ということで取り組んだそうでございます。一気に全店舗対象はなかなか難しいというようなことで、まず一定の大型店舗を対象に行政と消費者団体と連携しまして十分に意見交換を重ねた上で連名で協定を結んだということでございます。一定の規模の大型店舗、一緒に足並みをそろえることが大切だというふうに伺っております。役割としましては、行政は市民の方への説明、PR、協力要請などを行いまして、消費者団体としましては客離れが起きないように消費者を支える取り組みも大切だというふうに伺ってございます。

今後の長井市の取り組みにつきましては、買い物袋持参運動推進協議会と連携をとりながら先進地の視察研修などを行い、スーパーマーケットの意向を伺うなどレジ袋無料配布中止に向けたレジ袋削減運動を行ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○佐々木謙二議長 鈴木一則建設課長。

○鈴木一則建設課長 おはようございます。私の方からは谷口議員のご質問の市内道路の街路樹下の花壇の管理についてという点でございます。

+

議員からご指摘ございましたように、街路樹下並びに花壇の管理につきましては、常時管理という形ではなってございませんので、雑草が生い茂った状況になっているところがございます。例年維持管理につきましては市内業者の方々にあやめ公園通りのツツジ、百間道路のドウダンの剪定、除草、それから土砂等の撤去を委託をしております、市民の方のみならず観光客の方々に気持ちよく道路を通行していただくように努めておるところでございます。

限られた予算ということで、なかなか作業回数をふやすことができませんので、どうしても雑草が生い茂ってる期間があるというふうなところでございます。

なお、ご要望やご指摘をいただいたところにつきましては、現場確認を行いまして対応いたしているところでございます。

議員からございましたサポーター制度の関係についてご説明をさせていただきます。山形県では、国道、県道の道路維持管理にご協力をいただくために2つのボランティア事業を行っております。企業や地区、団体などで取り組んでいただいております。

1つ目のマイロードサポート事業というのがございます。現在舟場地区を初めといたしまして市内6団体の皆様に国道、県道の花壇の花植え、それから路肩、歩道の清掃、除草を実施していただいております。

議員からお話がございました片田、神明町女性の会で取り組んでいただいております県道長井大江線沿いの花植え管理につきましては、大変昨年のフラワー都市交流事業や先日も行われました黒獅子のまつりの際にも市民の皆様からお褒めをいただいているというところなんです。ことしも大変きれいに管理をいただいております。

2つ目に、置賜道路ボランティア事業というのがございます。ことし市内4団体の皆さんにご参加をいただいております。館町南、館町北地区

の皆様には国道287号と長井高校南側の県道長井飯豊線沿いの花壇の花植えと除草にご協力をいただいております。今年度新たに中央地区女性の会の皆様には長井橋の歩道にございます花壇の花植えと除草をしていただいております。また、長井南中学校では、命の教育の一環として全校挙げて県道椿長井線沿いの花植えのプランターでございますけれども、フラワーロードづくりに取り組んでいただいております。

もっと参加者をふやすためサポーター制度など多くの方に声かけを行って管理いただく方法を探してはというご提案をいただきましたが、これらの県の事業につきましては県内各地の参加要望団体の希望が大変多うございまして、限られた予算内での対応ということで大変苦慮しているというふうにお伺いをしております。建設課といたしましては、事業枠の拡大に向けて要請を行ってまいりたいと思います。

また、長井市では、共同作業支援マニュアルに基づきまして、草刈り作業、土砂撤去などの自主的・積極的な協力をお願いいたしまして、協働のまちづくり支援による環境の整備、管理の充実を進めておるところでございますが、花壇の管理につきましても各地区で取り組んでいただくようお願いしてまいりたいというふうを考えております。

なお、ご質問の中にご指摘ありましたところでございますが、土曜日の日にあやめ公園通りにつきましては県道勸進代舟場線と県道長井大江線の間につきましてはマツキグループのご協力によりまして早朝作業をいただいております。

それからきのうプラザ前の谷地仲町線になりますけれども、そのプランターでございますが、大屋敷地区の皆様にはプランター6個の花植えをしていただきまして、残りにつきましては今月中に谷地寺地区で作業をしていただけるというふうにお伺いをしております。ここ以外にご指

摘いただいた以外でも市内各地区で地区の事業や団体のボランティア活動ということで大変道路維持管理につきましてはお取り組みをいただいている箇所が多くございます。ご協力に対しましてお礼を申し上げたいと思います。

以上でございます。

○佐々木謙二議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

私に対する質問といたしましては、さくら回廊、黒獅子まつりを振り返っての感想と反省点というふうなことであったかなというふうに思っています。

総体としての総括につきましては、ただいま市長の方から申し上げたかというふうに思います。

数字的な部分をお話をさせていただきますと、まずさくら回廊でございますが、平成20年、今年度久保ザクラで13万7,000人、草岡大明神ザクラで3万8,000人、合計で17万5,000人というふうに見てございます。昨年度約16万人ぐらいですので、昨年度よりもふえているというふうな状況でございます。

また、黒獅子まつりにつきましては、昨年度7万人というふうに見てございますが、今年度若干減りまして、6万8,000人、同程度というふうなことで考えてございます。白つつじまつり全体といたしましては、同じ12万人というふうに見ておるところでございます。

それから入り込み数以上に今年度の目標といたしまして観光客の市内滞留といたしましうか、まちなかへの波及というふうなところを考えて取り組んだわけなんです、総体として一定程度の効果あるいは反応があったというふうに考えてございます。

なお、反省点といたしましうか、課題的な部分でございますが、さくら回廊につきましては、さくら回廊推進協議会の方で取りまとめをした中では、道路の誘導看板といたしましうか、案

内板が必ずしも十分でないというふうな点、それから売店のテントがかなりまちまちであるというまいしうか、古くなってる状況もあるというふうなことでイベントを考えるというよりは基盤整備が必要なんでないかというふうな反省が出されてございます。

それから黒獅子まつりにつきましては、観光協会の方の検討チームの方で種々検討を重ねていただいて、会場の中の装飾といたしましうか、鳥居あるいはしめ縄等の会場の雰囲気づくりというふうなことでことし取り組んでいただきました。

あるいは特によかったかなというふうに感じてございますのは、会場での獅子振りが終わった後に、展示場というんでしうか、休憩場所みたいな形を後ろに置かれまして、一般の方との触れ合いといたしましうか、そういったふうな場所を設定をなさっていただきました。そういったところの改善点といたしましうか、展開はよかったなというふうに感じてございます。

ただ、市内の駐車場の位置が外から来た方に必ずしもわかりやすいものではない、あるいはどうしても雨が降るといふふうなときに敷席の対応がどうだったかというふうなご指摘をいただいているところでございます。

そういったふうな問題もございましし、これからの課題といたしましてはそれぞれにお客様が喜ぶような土産品というふうなものがあるかどうかというふうなこと、それからことし特に市内の方に歩くというふうな動きが出てございます。そういったときに実際のお店屋さんあるいは市民の方がどんなふうに受けとめられたか、対応していただけたか、あるいは今後、対応していただけるかどうかというふうなところが重要なポイントになるかなというふうに思っています。

さらに来年度に向けてですが、イベント内容の検討あるいは営業活動というふうなものを特

+

に早めなければならないというふうに感じてございます。そういったふうな来年度に向けて年末ぐらいまでにはとにかく形をつくって営業していくような形でないととてもまた来年のものに間に合わないというふうなことが感じてございます。そういったものを含めてインターネットを通した情報発信力というふうなものが強化が必要だろうなというふうに感じておるところでございます。さくらに始まりまして、つつじまでご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

鈴木悟司議員の質問

○佐々木謙二議長 次に、順位6番、議席番号2番、鈴木悟司議員。

(2番鈴木悟司議員登壇)

+ ○2番 鈴木悟司議員 おはようございます。

質問に入る前に、私の前の谷口議員の質問が多岐にわたってありまして、私の質問内容と重複する部分はかなりございますので、当局からは簡潔明瞭なご答弁をお願い申し上げたいと思っております。

さて、長井市の観光事業の取り組みについてお伺いいたします。

その中で重点事業として考えられるのは、一つに花を中心とした観光事業の推進だと思えます。4月の置賜さくら回廊に始まり、5月の白つつじまつり、そしてあす、6月10日よりあやめまつりが開催されます。これから開催されるあやめまつりには、おもてなしの心で観光客の皆様をお迎えし、長井市のよさをより大きく宣伝していただきたいと思っております。

まずは4月から5月にかけて行われた置賜さくら回廊と白つつじまつりの実施状況についてどうだったのか、商工観光課長にお伺いいたし

ます。

置賜さくら回廊の観光客数の実績を見てみますと、平成17年が9万人、平成18年度が17万8,000人、平成19年度が15万9,000人のようです。具体的な数字でご説明いただければと思っております。特に久保ザクラに来られた観光客の数とバスの台数や車の台数がわかればご説明をお願い申し上げます。

同様に白つつじまつりの実績は、平成17年が14万8,000人、平成18年が11万5,000人、平成19年が12万人ということでしたが、この実績は黒獅子まつりを含んだ実績なのか、お伺いいたします。

次にですが、伝統と資源を生かした観光事業についてです。これはながい黒獅子まつりとなが水まつりが中心になる事業ですが、特にながい黒獅子まつりはことしで19回を数え、内外に知名度が上がっており、数多くの観光客に来ていただいているようです。今年度は終わっただけですが、ぜひ来年の20回記念に向けて反省点を出して、すぐにでも動いていただきたいと思っております。

商工観光課長には、今回の黒獅子まつりの実施状況についてお伺いいたします。

そして内谷市長につきましても20回記念に向けてのお考え方をお伺いしたいと思っております。

ながい水まつりについては、事業所の協賛金と市民協力金が大きなウエートを占めているようですが、現在の非常に厳しい経済状態で花火大会は続けていけるのか心配でございます。今後の状況についてわかる範囲でお聞かせください。これについても商工観光課長にお伺いいたします。

次に、観光宣伝と観光客誘致についてです。市内の商店街やさまざまな組織の方々が観光PRや観光客を呼び込もうと頑張っておられます。「千二百年桜」「春の淡雪 白つつじ」「見さ